

## 2023年度（公財）JKA補助事業の成果及び自己評価結果の公表

補助事業名 2023年度公設工業試験研究所等における機械設備拡充補助事業  
補助事業者名 地方独立行政法人北海道立総合研究機構

### 1 補助事業の概要

#### (1) 事業の目的

北海道立総合研究機構工業試験場における試験機器の整備を推進し、試験研究機能や技術支援機能の強化を図ることにより、道内中小企業等の技術力向上を支援し、機械工業の振興、新産業の創出に貢献します。

#### (2) 実施内容

試験体（製品や開発品）に対して指定した条件の振動を加え、輸送時や使用時、地震発生時に受ける振動によって試験体の機能が損なわれないことの確認や、試験体が最も激しく振動する振動数（共振振動数）を確認することができる、「振動試験装置」を導入しました。

### 2 予想される事業実施効果

#### ①振動試験装置

本機器の導入により、製品や開発品の耐振性及び振動特性の評価を通じて、製品の品質や信頼性の向上、新製品開発が促進され、道内製造業の振興に大きく貢献すると予想されます。

### 3 本事業により導入した設備

#### ①振動試験装置

(<https://www.hro.or.jp/upload/43846/sindousikensouti.pdf>)

試験体（製品や開発品）に指定した条件の振動を加え、振動特性試験及び振動耐久性試験を行う装置です。サイン振動・ランダム振動（最大加振力26.0kN）やショック加振（最大加振力57.2kN）による振動試験が可能です。



振動試験装置

設置場所：【地方独立行政法人北海道立総合研究機構 産業技術環境研究本部 工業試験場】

②本事業に係る印刷物等

北工試だより ～道総研工業試験場メールマガジン～

◆ R6/1/4 Vol. 23.11 No. 201 ◆



北工試だより ～道総研工業試験場メールマガジン～



謹賀新年

新しい年を迎え、気持ちも新たに様々な試験研究を進めるとともに、企業の皆様や大学、関係機関の皆様とともに、道内のものづくり産業の一助となるべく取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

工業試験場・ものづくり支援センター

☆☆☆☆☆☆ 目次 ☆☆☆☆☆☆

- 【1】移動工業試験場（帯広）を開催します（申込締切1/10）【参加無料】
- 【2】ものづくり関連の各種研修会のお知らせ【参加無料】
- 【3】『JKA補助事業による新規導入機器』のご紹介
- 【4】室蘭工業大学『MONOづくりみらい共創機構創立記念シンポジウム』のご案内
- 【5】道総研のご利用に関するアンケートのお願い

\*\*\*\*\*

- 【1】移動工業試験場（帯広）を開催します（申込締切1/10）【参加無料】

\*\*\*\*\*

- 【3】『JKA補助事業による新規導入機器』のご紹介

\*\*\*\*\*

競輪の補助を受け、次の機器が導入されましたのでご紹介します。

◆事業名：公益財団法人 JKA 2023年度 機械振興補助事業

▼振動試験装置（エミック（株） FX-26/60型）

機能・特徴

- ・試験体（製品や開発品）に対して指定した条件の振動を加える
- ・輸送時や使用時、地震発生時に受ける振動によって試験体の機能が損なわれないことの確認や、試験体が最も激しく振動する振動数（共振振動数）を確認可能

主な仕様：最大加振力 サイン・ランダム：26.0kN、ショック：57.2kN

振動数範囲：1～2500Hz

最大加速度：1000m/s<sup>2</sup>

最大変位：60mm

最大搭載質量：400kg

▼JKA補助事業設備紹介

<https://www.hro.or.jp/list/industrial/research/iri/JKA/index.html>

\*\*\*\*\*

- 【4】室蘭工業大学『MONOづくりみらい共創機構創立記念シンポジウム』のご案内

\*\*\*\*\*

#### 4 補助事業の自己評価

##### ①振動試験装置

本事業により機器を更新したことで、加振力や振幅等の基本能力が向上し、現有機では対応できなかったより厳しい条件での評価が実施できるようになり、多様化する耐振性及び振動特性の評価ニーズへの対応が可能となりました。以上により、北海道内のものづくり分野の中小企業等（電子・電気製品製造業や産業機械・金属製品製造業など）に対して、製品開発や品質・信頼性向上を支援し、当該分野の振興・先進性の向上を促進する体制の充実を図ることができました。

【総合評価点】 4 全体として比較的高いレベルの事業であった。

(参考) 2023年度 J K A 補助事業「自己評価スコアリングガイド」

総合評価	5	全体として極めて高いレベルの事業であった。
	4	全体として比較的高いレベルの事業であった。
	3	一部に不十分な水準の内容があり、今後の課題となるが、全体としてはほぼ問題のないレベルの事業であった。
	2	全体として不十分なレベルの事業であり、いくつかの課題が残った。
	1	全体として極めて不十分なレベルの事業であり、根本的な見直しが必要である。